

薩摩硫黄島の火山活動解説資料（令和元年7月）

福岡管区气象台
地域火山監視・警報センター
鹿児島地方气象台

火山性地震は少ない状態でした。火山性微動は観測されていません。

火山活動に特段の変化はありませんが、硫黄岳山頂火口では噴煙活動が続いていますので、火口内では火山灰等が噴出する可能性があります。火口付近では火山ガスに注意してください。なお、地元自治体を実施している立入規制等に留意してください。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図1、図2 - ）

硫黄岳山頂火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上1,300m（6月：1,000m）以上に上がりました。また、高感度の監視カメラで微弱な火映を時々観測しました。

・地震や微動の発生状況（図2 - 、図3）

火山性地震の月回数は238回（6月：150回）と少ない状態でした。震源が求まった火山性地震は19回（6月：6回）で、震源は硫黄岳付近の深さ0～1km付近と、硫黄岳山頂火口から南に約3kmの深さ5～6km付近に求まりました。

火山性微動は2018年3月17日以降、観測されていません。

・地殻変動の状況（図4、図5）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（令和元年8月分）は令和元年9月9日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学及び三島村のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。



図1 薩摩硫黄島 噴煙の状況（7月25日、岩ノ上監視カメラによる）

< 7月の状況 >

白色の噴煙が火口縁上1,300m（6月：1,000m）以上に上がりました。

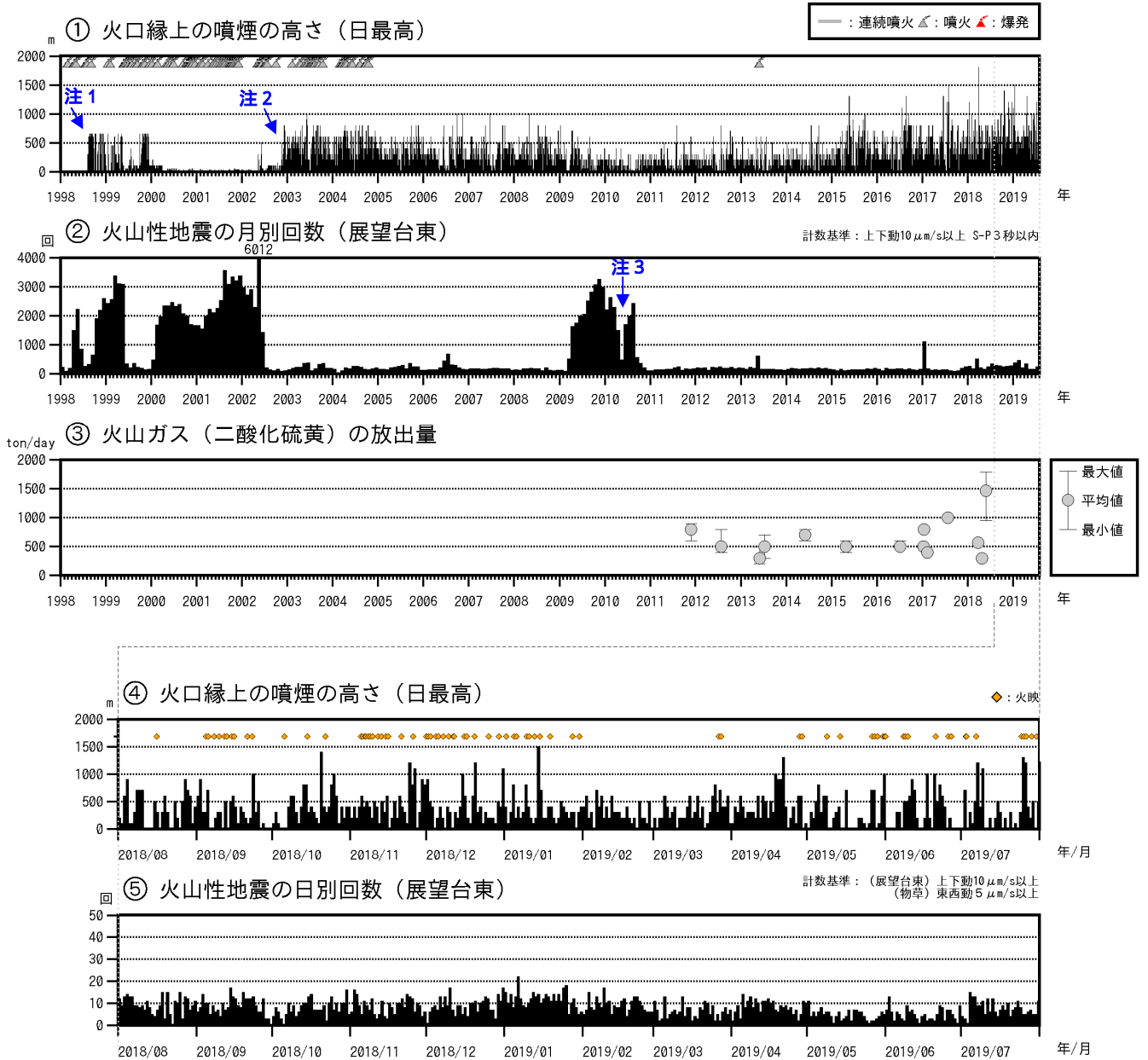


図2 薩摩硫黄島 火山活動経過図（1998年1月～2019年7月）

< 7月の状況 >

- ・ 白色の噴煙が火口縁上1,300m以上に上がりました。
- ・ 硫黄岳山頂火口では、高感度の監視カメラで微弱な火映を時々観測しました。
- ・ 火山性地震の月回数は238回と少ない状態でした。
- ・ 火山性微動は観測されていません。

注1 1998年8月1日：三島村役場硫黄島出張所から気象庁へ通報開始。

注2 2002年11月16日：気象庁が設置した監視カメラによる観測開始。

注3 2010年1月から7月にかけて、地震計障害のため火山性地震及び火山性微動の回数が不明の期間があります。

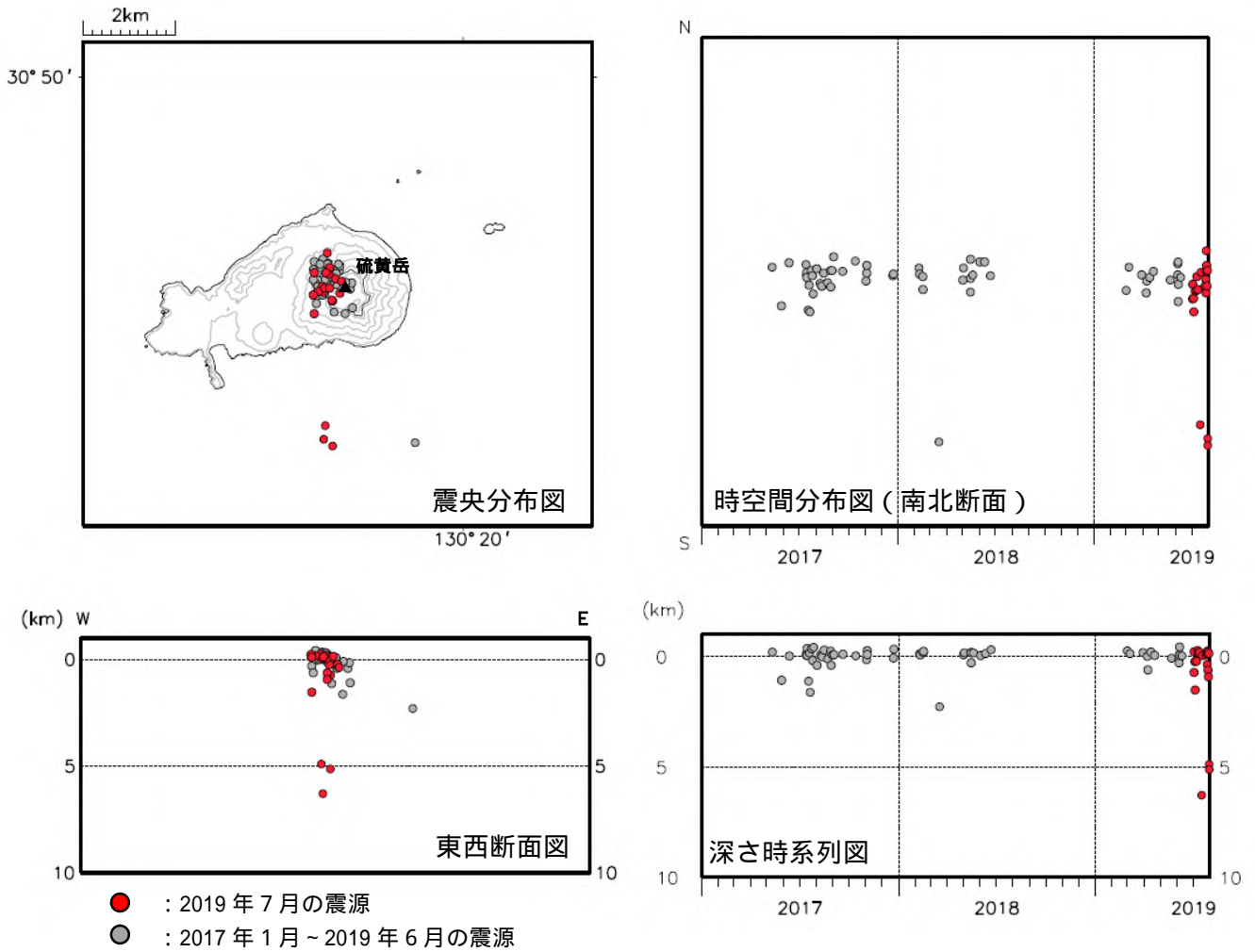


図3 薩摩硫黄島 火山性地震の震源分布図（2017年1月～2019年7月）

< 7月の状況 >

震源が求まった火山性地震は19回で、震源は硫黄岳付近の深さ0～1km付近と、硫黄岳山頂火口から南に約3kmの深さ5～6km付近に求まりました。

地震計障害のため、2018年6月28日～2019年2月28日にかけては震源が求まっていません。

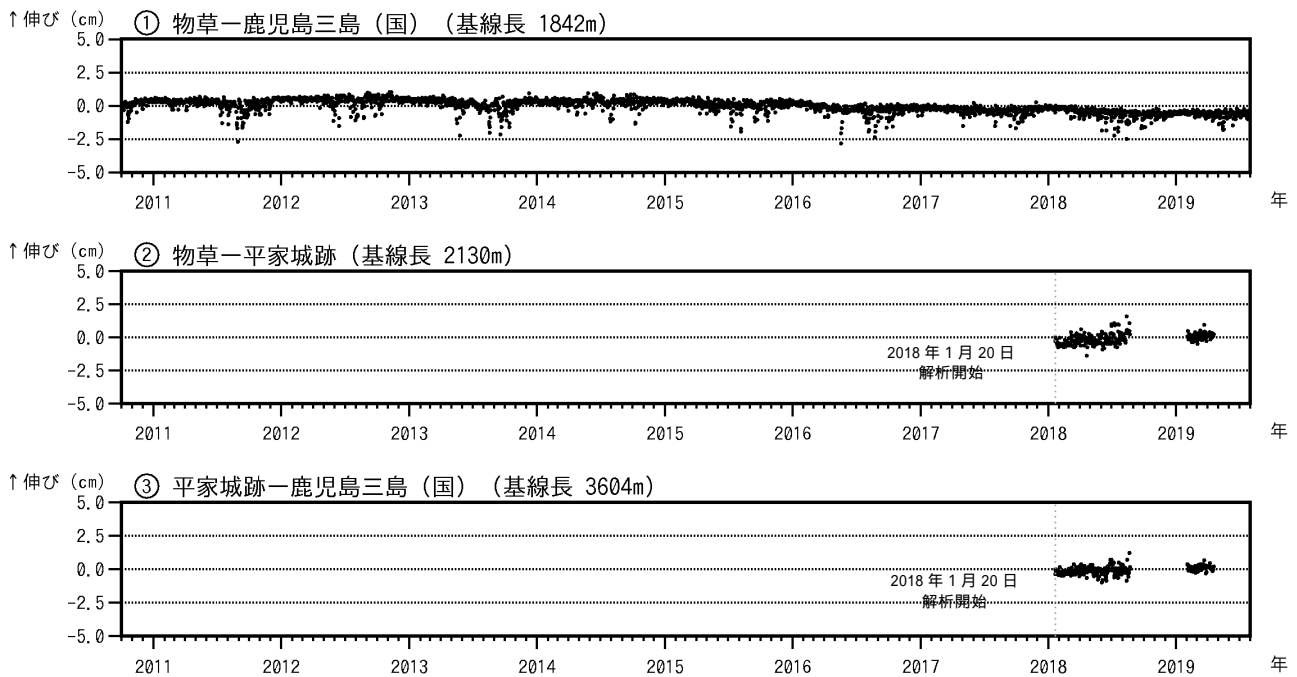


図4 薩摩硫黄島 GNSS連続観測による基線長変化 (2010年10月～2019年7月)

火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。

この基線は図5の ~ に対応しています。

基線の空白部分は欠測を示しています。

(国)：国土地理院

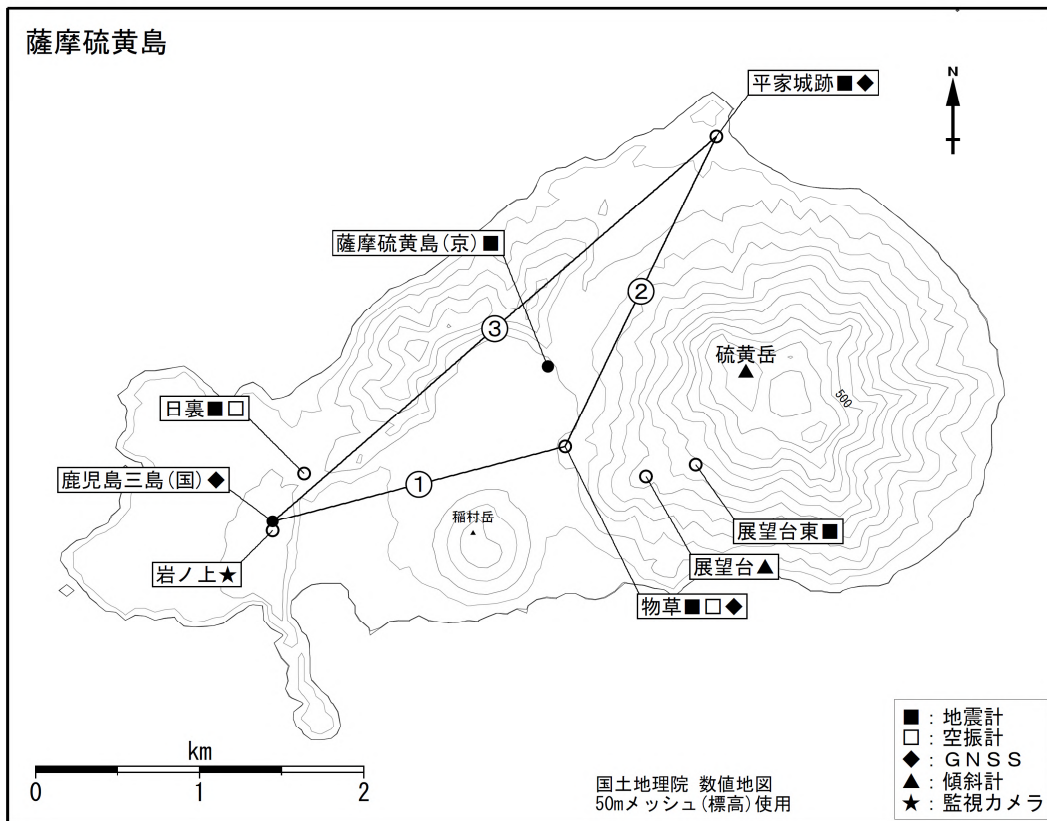


図5 薩摩硫黄島 観測点配置図

小さな白丸 () は気象庁、小さな黒丸 () は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国)：国土地理院、(京)：京都大学